ロータリー月例報告 2022 年 5 月(2022 年 6 月提出)：

2021-22 年度 地区補助金奨学生
スウェーデン・ヨーテボリ大学
和田 哉恵

6 月第一週の木曜日の課題提出をもって、ヨーテボリ大学修士一年目が終わりました。早いもので、スウェーデンに来てからもうすぐ一年が経とうとしています。最近は天気のいい日も増えてきて（6 月第二週以降は曇りの日も増えていますが…)、陽も長くなり午後 10 時頃まで明るくなってきました。日本の感覚だと違和感もありますが、せっかく日が長いので積極的に陽の光を浴びておこうと思います。

写真：久しぶりに市街地へ買い物に行くとデコレーションが夏仕様にカラフルになっていました。6 月はプライド月間ということもあり、レインボーの旗も街にあふれています。

さて、今回の学期末課題では、どこかの団体や行政の制度などに対してより包括的に・平等にするためのプラン[Equality Plan]を作成するというものでした。クラスメートの中には、ヨーテボリの Pride Festival を開催する団体に対してや、DJ や歌手活動をしているクラスメートは音楽シーンにおける現在の問題を調査し、プランを作成していました。

私たちのグループは数年前にヨーテボリの病院の緊急医療の現場で起きた事件を機に問題視されている医療機関における制度的・構造的人種差別をテーマに、複合的差別に対するプランを大学病院に対して作成しようかと検討していました。ですが、大学病院の担当スタッフとの連絡を試みたものの困難であったため、当初から予定を変え、今年度のスウェーデン政府の予算案から改革の効果より平等にいきわたるように、政府のアプローチの問題点を分析し、改善点を提案するというものに変更しました。グループの中で環境問題・雇用問題・国家安全問題をそれぞれ分担し、各自で調査を行い、定期的に集まって平等プランの構成について話し合ったりしました。私は国家安全問題を担当し、特にスウェーデンにおいて近年増加傾向にある犯罪組織による暴力事件と（男性から）女性に対する暴力の撲滅に向けた政府の方針について調査しました。公的な文書はやはり英語だと情報量も限られており、言語の壁に直面することも多々ありました。また学期末の課題のため時間も限られた中での研究であったため、もう深く実際にそれらの対策のために行われていることについて担当者のインタビューを交えて深く調査したかったなと少し悔しい思いもありましたが、課題提出前のプレゼンテーションでは担当教員から肯定的な評価を貰えたのは良かったです。今回できなかった分は、来年の修士論文に活かしたいと思います。